

丹波篠山市立篠山東中学校 学習・生活に関する学力向上プラン

本校では、中学1、2年生を対象に実施した丹波篠山市学力・生活習慣状況調査をもとに授業等の改善を行うため、本紙『学習・生活に関する学力向上プラン』を作成しました。学力の定着状況をご理解いただき、子どもたちの学習及び生活習慣の改善や学校の教育活動に対してご支援いただければありがたいと思います。

丹波篠山市学力・生活習慣状況調査結果の概要

- 国語科では、
3観点のうち「知識・技能」「思考・判断・表現」の2観点については、正答率で全国平均とほぼ同程度または上回る良好な状況でした。残る1観点の「主体的に学習に取り組む態度」については、全国平均を6.4ポイント下回りました。また、問題の内容別では、「文章を書く」部分において、全国平均を下回りました。
- 数学科では、
3観点の正答率について、「知識・技能」は7.3ポイント、「思考・判断・表現」は6.5ポイント、「主体的に学習に取り組む態度」は3.29ポイント、すべての観点で全国平均を上回る良好な状況でした。問題の内容別では、出題された7つの内容中、5つの内容で全国平均を5.7～16.5ポイント上回っており、学習内容の定着がみられます。残り2つの「平面図形」と「データの分布の傾向」の内容には、全国平均より2.3～5.0ポイント下回っています。
- 学習習慣・生活習慣等についての意識アンケートからは、「家族のささえ」「友だちのささえ」「先生のささえ」「規範意識」「学級の規範意識」「学級の絆」「いじめのサイン」において、全国平均を2ポイント以上上回る結果でした。また、クラスの90%以上が、肯定的に集団（クラス）を捉えています。これらは、学校と家庭・地域とが連携して子どもたちに働きかけてきた成果だと考えています。今後も、家庭でのサポートをよろしくお願いします。

現在の課題および今後の学力向上方策

- 国語科
前半の問題に時間をかけすぎて後半の「文章で書く」の問題で十分に時間をかけることができない生徒がありました。他の問題を解くスピードが上がるように、日々の授業で「速さ」と正確さを意識させ、理解定着を目指します。
- 数学科
「平面図形」では、基本的な問題は正答率が高く、発展的な問題で正答率が低い傾向が見られます。問題演習に発展的な問題を取り入れるなど、これまで以上に発展的な問題にも取り組ませます。「データに分析の傾向」では、用語の意味をきちんと覚えられていないため、「知識・技能」の観点のうち、計算等の「技能」の面だけでなく、用語の意味等の「知識」の面にも力を入れて、正しく覚えられるように指導していきます。
- 『学習習慣・生活習慣等についての意識アンケート』
「思いやり（人間関係構築）」においては、2.2ポイント全国平均を下回っています。毎日の生活や学習・学校行事の中での成功体験を積み重ねながら、自分のことを認めてくれる仲間がいる集団、自分の思いが安心して発信できる集団作りを基本として、他者の対しても意見を聞き、相手の立場に立って考える機会をより多く持ち、互いに認め合うなかで、より望ましい人間関係を構築していけるように支援していきたいと考えています。

【保護者へのお知らせとお願い】

本校では、今回の調査結果を生かして、お子様一人一人についての学習の在り方や生活習慣について指導方法を検証し、取組を充実させていきます。ご家庭におかれましても、子どもたちの家庭学習のあり方や生活習慣について今一度ご確認いただき、支援をよろしく願いいたします。

また、子どもたちの持てる力をさらに伸ばしていくために、周りの支えが何より必要です。個々の成長、そしてより良い集団づくりのために、学校と家庭・地域とが連携して子どもたちを支えていけますよう、ご協力をよろしく願いいたします。